

# 緑の下の カモチ

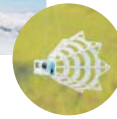
空から見ると「どの土地もスゴイ」。  
その感動を地元の人に伝えていきたい。

大自然をモーターパラグライダーで飛んで撮影するスタイルを確立し、追求し続ける唯一無二のカメラマン、多胡光純さん。地上50cm〜5000mの空から多胡さん自身が飛んで撮影する映像は、ヘリともドローンとも異なり、風や気流、温度を感じながら人が撮った臨場感であふれている。

大学で探検部に入り、北米のさまざまな地をカヌーでくぐる旅を重ねた。あるとき高い山の上からマッケンジー河を見て、山という限定された場所ではなく、自由自在に空から飛んで眺めたくなった。そこで、飛行錯誤して、モーターパラグライダーに乗りながら撮影するという方法を思いつく。モーターパラグライダーとは、パラグライダーにプロペラエンジンがついた装置で、



雲上をいく多胡光純さん。高度2500メートルを飛行中(カメラ付きシャトルを引っぱって撮影2019年7月)。



回到3時間ほど、燃料が続く限り飛行できる。

「モーターパラグライダーは飛ぶのに2人必要です。僕は自分一人だけで海外まで運び、現地で組み立てて、飛びたかった。モーターパラグライダーじゃないと実現できなかった。」

第一人者に師事し、2年かけてモーターパラグライダーの操縦をマ



北海道の屋根・大雪山(2290m)。山頂には直径2キロほどのカルデラ「お鉢平」があり、大雪山の雪解け水が見える。その水は石狩川となって北海道中西部を流し、日本海へと流れ出る(撮影2019年7月)



大雪山の麓、大雪高原(標高700m)には大雪山の雪解け水を用いた農地が広がる。写真中央は大田地の一部にひかれた温室をつくるためのビニール。その長さは一辺400メートル。写真上部には農地で働くトラクターが点在する。この大根は豪華い基準をクリアし京都青果市場へ出荷されている(撮影2019年7月)。



## 多胡光純さん

1974年埼玉出身。獨協大学在学中は探検部に所属、北米を探検。卒業後もアルバイトをしながら北米の旅を続け、2011年よりモーターパラグライダーを学び、2003年より空撮での撮影を始め、「天空の旅人」の異名をとるようになる。代表的映像にNHK「紅葉列島空の旅」。写真はモーターパラグライダーのエンジンを背負う多胡さん。  
<https://www.tagoweb.net>

元の人とその感動を分かち合いたい。その思いでふっ切れました。」結婚して京都の木津川市に拠点を構えた。木津川の源流をはじめ、長崎、マダガスカル、大分。今まで地元の人が見たことがなかった空からの風景を追い続ける。

印象的だったのは北海道の大雪山。雄大な自然が広がる国立公園に隣接する大雪高原には、大雪山の雪解け水を用いた農地が広がる。長さが一辺400mもある大根畑の広大さ、そこを耕すトラクターの巨大さ。上映会は盛り上がった。

多胡さんは、大雪高原の大根は京都青果市場に出荷され、刺身のつまとして高値で取引されたり、漬物として京都の食卓にのぼったりしていると知った。大雪山の雪解け水が京都の食の一部を支えている。北海道で、京都とつながる不思議な縁。そんな発見がおもしろくて、多胡さんは次の天空に駆り立てられる。

今まで世界7カ国、国内外356カ所の空を飛んだ多胡さん、「どこが一番美しかったですか?」という質問が「一番困る」と笑う。「どこも等しく美しい。あなたが暮らす土地は、世界の絶景と変わらないくらい素敵な場所です」と伝えるのが自分の使命です。「一生をかけて取り組めます」。

空撮映像が紡ぐ物語を見ると、僕は本当のことが知りたい。その地に暮らす人のために撮影して、高みからの映像を見てもらいたい。地

## 私も力もちです

モーターパラグライダーによる空撮で、地元の人々にその土地への発見を共有する多胡さんは、そこに住む人の足元を支える緑の下の力もち。多胡さん同様に、三洋化成はさまざまな機能性化学品の提供を通じて、暮らしや産業の様々な分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

◎京都市東山区一橋野本町11-1  
もよりバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

こちらから  
TAGO channelへ  
アクセス



2019年11月1日、  
当社は70周年を迎えました。

